

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月14日

協議会名: 新発田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
新潟交通観光バス(株)	あやめバス(外回り・内回り)申請番号1~7	・高校生や高齢者の利用を促進するために、通学や通院、買い物へのバスの利用をPRするパンフレットを作成、配布した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 <事業の目標> 年間利用者数81,704人以上 (前年度)81,527人→(今年度)78,184人 <事業の効果> ・新発田市街地における公共施設や商業施設、医療機関といった施設や観光資源へのアクセス性の確保と回遊性の向上を図る。 <達成状況の分析> ・少雪の影響もあり、冬期利用者が昨年度に対し大きく減少したため、目標値を達成することができなかったものと考えられる。 ・1便あたり13.7人の利用があり、中心市街地や商業施設、医療施設等を移動するための手段として定着している。 ・近年は利用者数が横ばいに推移している傾向もあることから、さらなる利用促進を図るため、運行内容の検証を行う必要がある。	・高校生の通学や高齢者の通院、買い物へのバス利用を促進するためのパンフレットの作成、配布を継続する。 ・四半期に一度行う動態調査結果を基に、運行内容を検証する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月14日

協議会名: 新発田市地域公共交通活性化協議会  
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
新潟交通観光バス(株)	川東コミュニティバス 申請番号8～13	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のイベントでのPR活動、通院利用、買物利用を促すための利用ガイドを作成、配布したほか、地域住民の積極的な利用を促すための乗り方教室を実施した。</li> <li>学校への通学に配慮したダイヤ設定を継続した。</li> </ul>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 <事業の目標> 1日当たり利用者数260人以上 (昨年度)228人→(今年度)184人 1日当たり運賃収入27,500円以上 (昨年度)19,982円→(今年度)17,190円 <事業の効果> ・川東地区における自家用車を運転できない高齢者や障がい者、高校生等のいわゆる交通弱者の日常生活の移動ニーズに応じた移動手段を確保する。 <達成状況の分析> ・乗車人数が目標に達しなかった要因の一つとして、昨年度と比較し、冬期間において少雪であったことから、利用者が大幅に減少したことが考えられる。 ・運賃収入が目標に達しなかった理由として、身体障害者手帳等の提示による無料乗車人数の割合が増加していることに加え、少雪による冬期利用者の減少が主な要因と考えられる。 【参考①】川東地区高校生の市内6高校における学生数と利用率(見込) (H30.7動態調査)73人、18.4% → (R1.7動態調査)72人、20.3% 【参考②】県立新発田竹俣特別支援学校のバス利用者数 (H30)26人 → (R1)31人 【参考③】手帳提示率(手帳提示者/乗車人数) (H30)19.8% → (R1)22.4% ・目標は達成しなかったものの、川東地区内の高校生及び川東地区にある県立新発田竹俣特別支援学校の生徒の重要な通学手段として定着している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用時において、乗り継ぎへの不安感もあることから、地域とともに乗り方教室を継続して実施するほか、バス停掲示物や車内掲示物の工夫を行うなど利用促進を図る。</li> <li>地域住民と一体となり、運行内容の検証を行う。</li> <li>小・中学校の通学に配慮したダイヤ設定を継続する。</li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月14日

協議会名：	新発田市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>新発田市においては、市内と市外とを結ぶ幹線で広域的な役割を担う広域路線(羽越本線(鉄道)、白新線(鉄道)、木崎線(路線バス))を軸に、市域内に広範に鉄道、路線バス、コミュニティバス等により構成される公共交通ネットワークが広がっている。これらの公共交通については、広域路線に通じる幹線路線(路線バス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス)、中心市街地路線(市街地循環バス(あやめバス))が広域路線の支線の役割を果たしている。また、新発田市街地中心部にある新発田駅で結節している。(新発田市地域公共交通網形成計画(以下、「計画」という。)P20、P73参照)</p> <p>「新発田市都市計画マスタープラン」では、目指すべき将来の都市の骨格として、新発田市街地中心部を「都市拠点」と位置付けており、地域公共交通ネットワークの構築においては、新発田市市街地中心部、特に、新発田駅を交通結節点として、中心市街地の各公共施設や商業施設、医療機関といった都市機能施設や観光資源への市内外からのアクセス性を確保し、回遊性を向上させることで、都市拠点としての機能を高める方向としている。また、公共交通を取り巻く現状では、高齢化や学校統廃合に伴う児童生徒の通学環境の変化により、自家用車を運転できない高齢者等のいわゆる交通弱者の日常生活の移動手段の確保が求められており、公共交通の必要性が高まっている。</p> <p>このうち、あやめバスは、市中心部内の居住地域・交通結節点と各拠点施設を結び、地域住民及び各地域・近隣市町からの利用者にとって重要な移動手段となっている。川東コミュニティバスは、川東地区と市中心部を結び、地域住民の日常生活を支える役割とともに、小学校及び中学校への通学手段としての役割を担っている。あやめバス及び川東コミュニティバスは、JR新発田駅で鉄道や路線バスと結節し、地域住民、近隣市町の利用者にとって欠かせない移動手段となっており、将来に渡り安定した運行の確保・維持を図る必要がある。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、あやめバス及び川東コミュニティバスを確保・維持することが必要である。</p>